

営農指導員の  
ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

夏は果菜類のおいしい季節。しっかりと夏場の管理を行い、高品質・高収量を得ましょう。

主な果菜類の夏場の管理

トマト

- ▼各節から出るわき芽は小さいうちに引き取ります。
- ▼病害虫の発生を少なくするため、収穫の終わった果房の下の葉から取り除き、風通しを良くします。
- ▼乾燥と地温の上昇防止のための敷きわらをします。梅雨明け後厚めにします。
- ▼水やりは草勢を見ながら、少量多回数で行い、施肥は水やりと合わせて行います。

ピーマン

- ▼日照不足や風通しが悪くならないように、込み合ったり、間延びしたりした枝は少ずつ取り除きます。
- ▼乾燥と地温の上昇防止のための敷きわらをします。梅雨明け後厚めにします。(秋になり気温が下がれば、取り除きます)
- ▼追肥は15〜20日おきに畝の肩に行います。水やりは小まめに行い乾燥、過湿にならないようにします。

(※1) 溝肥 畝の脇に溝を掘って肥料を埋める  
(※2) 穴肥 脇に穴を掘って肥料を埋める

ナス

▼乾燥と地温の上昇防止のための敷きわらをします。梅雨明け後厚めにします。(秋になり気温が下がれば、取り除きます)

▼水やりは土壌の乾燥に注意し、早朝か夕方に畦肩と通路にします。

▼中期以降の追肥は通路に根が出てくるので、溝肥(※1)を主とし、時に穴肥(※2)をします。

▼7月中旬〜9月上旬は、徐々に側枝の更新を行います。主枝の各節から出る側枝は、第1花の先に1〜2枚の葉を残し摘心します。

▼側枝の果実を収穫するときに、側枝の、果実より下の脇芽の上で切ります。(切り戻し剪定)

トウモロコシ

▼本葉6〜9枚頃から、地際から側芽が出て分けつ(新しい茎が出る)してきますが、基本的には側芽の除去はしないようにします。

▼雌穂は1株に2〜3本出ます。絹糸が出る頃、一番上の雌穂を残して取り除くと大きく育ちます。

▼本葉3枚頃までは乾き過ぎ、湿り過ぎに注意します。雌穂が出る1カ月前から収穫期にかけて、乾き過ぎにならないように定期的に水やりをします。

問い合わせ

農業振興課 農業振興係

0824・73・1132

第3話



比婆いざなみ街道物語

街道沿線に存在するさまざまな資源をシリーズでお伝えする「比婆いざなみ街道物語」。

第3話は比婆いざなみ街道のシンボルであり、イザナミノミコトを祀った「熊野神社」の見所をレポートします。

神秘的なたたすまいの老杉群

熊野神社の大鳥居を抜けると、正面に巨大な杉が何本も見えてきます。

特に境内の石鳥居の先にある、ひととき大きな杉は「天狗の休み木」と呼ばれ、イザナミノミコトの使いである天狗が羽を休めたとの言い伝えがあります。

この巨杉の前に立つと、キツツキが木をつつく音が天狗の下駄の音に、吹く風と木々のざわめきが、天狗のうちの音に聞こえてくるようです。

パワースポット「神の蔵」

熊野神社本殿から約100メートル奥に進んだ、二ノ宮の前には「神の蔵」(御戸岩)と呼ばれる巨石がひっそりと鎮座しています。

この巨石は、比婆山に祀られているイザナミノミコトの神霊を祭儀により降臨させる場にしていたといわれており、凜とした雰囲気漂っています。

遙かな古代からの信仰が息づくこの巨石の前に立てば、何だか不思議と癒やされ、パワーをもらえる気がします。

熊野神社に行ってみよう

熊野神社は比婆いざなみ街道の中間地点付近の西城町熊野にあります。

悠久の時を経た老杉群や巨石は、見る者に神秘的な雰囲気を感じさせてくれます。皆さんもぜひ一度、訪れてみてはいかがでしょうか。



問い合わせ

いちばんづくり課 いちばんづくり係

0824・73・1278